

事務事業評価

平成 23 年度

担当グループ 学校教育グループ

基本事項	事務事業名	島原市中学生海外派遣事業				整理番号	2315	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	▼	予算目	10 款 1 項 4 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規		
		節 第2節 義務教育の充実	▼	事業区	その他	▼		
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	当初は、噴火災害で沈みがちな島原の中学生を励ますことを主な目的として始められたが、近年はグローバル化が進む国際社会への対応としても重要な事業と位置付けている。				計画期間	始期 平成 6 年から 終期 平成 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	本市中学2・3年生を対象とし、夏季休業中に中国(平成21年度までは韓国)を訪問し、上海市内の教育施設等の見学や現地の中学生との交流活動を通して、国際的視野の拡大と国際親善に努める素地を培うとともに、将来の島原市を担う心身ともにたくましい人材の育成をめざす。						
	目的達成のための手段・方法	有意義な訪問とするために、保護者も参加しての事前研修会を3回実施している。講師を招いての中国語の研修や一人一人の研修テーマの設定、集団活動のあり方などを行っている。						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	21 年度	22 年度	23 年度	
		応募した生徒全員の面接を行い、15名を選考している。平成22年度は28名、本年度は32名の応募があった。近年、応募者数が増えてきており、選考に苦慮している状況である。経済成長が急速に進む中国、特に上海市内の見学や現地生徒との一対一での交流、帰国後の報告会の開催など充実したものとなっており、これらが応募者増加につながっていると考えられる。		目標				
	活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	帰国後の「報告会」後に、生徒、保護者、引率教諭にアンケートを実施している。生徒の評価は、「たいへん良かった」が13名、「良かった」が2名であった。保護者の評価もたいへん好評で、『レポート作成を頑張っていた。参加させて視野が広がったようで良かった。英語力の大切さを言うようになった。』など多くの成果と感謝の言葉があった。		目標				
3回の事前研修会及び帰国後の報告会を開催している。事前研修会では、講師を招いての中国語研修、中国や上海に関する調べ学習、一人一人のテーマ設定、集団活動のあり方など、帰国後は一人一人がテーマに基づいて、市長、教育長、教育委員会関係者及び保護者や各中学校長の出席のもと8月下旬に報告会を開催し、好評を得ている。		実績						
事業費等の推移	年度		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		2,549	2,040	1,627	2,400	2,583	2,444
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他				1,899	1,899	1,899
		一般財源	2,549	2,040	1,627	501	684	545
	②従事職員給与費 b1×b2		861	858	859	860	868	873
	の	従事職員数(人) b1	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12
		職員平均人件費 b2	7,179	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277
事業費合計 ① + ②		3,410	2,898	2,486	3,260	3,451	3,317	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった グローバル化や国際社会に生きることが、以前にも増して求められている。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 対象が、中学生であり、行政・学校のかかわりは、欠かせない。本事業の民間への委譲は、むずかしい。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 15名の中学生を選考し派遣しているが、訪問希望者も2年続けて募集定員の約2倍であった。募集定員の増員を検討する必要がある。	B
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 中国を訪問し交流活動をとおして、訪問団員は、英語力の必要性を強く感じている。国際的視野の拡大に繋がっている。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 長崎県は、上海市との友好を深めるなど親善が深い。上海航路等を活用することも、今後考えられるのではないかな。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを縮減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 3泊4日の日程のため、夏季休業中に訪問を実施している。猛暑の中での訪問であり、旅行日程には余裕が必要である。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 島原市内の中学生を対象とした取組であり、事前研修会や報告会を計画的に実施している。現状が望ましい。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 長崎県上海事務所や現地旅行業者との連携を図り、訪問先の手配を行っている。本市及び上海市内の旅行業者も世話をしているため、上海訪問が定着すれば、内容の一部委託も可能であると思われる。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 個人負担は、パスポートの作成料のみであり、保護者の経済力に関係なく応募できる。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	
			判定評価平均 A=3、B=2、C=1、D=0として換算 2.78

◎ 総合評価			
評価結果	◎ A 継続実施(特段の見直しは行わない) B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止(隔年実施などへの変更) ○ D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	ここ2年間は、募集定員15名に対して、約2倍の応募者数で、中学生の海外訪問への関心も高まっている。また、2~3年生を対象とした事業であるが、3年生の応募者が多く、3年生を優先的に選考をしている現状である。訪問後の保護者アンケートや訪問団員のレポートから、多くの成果が上がっていると判断している。 平成6年から21年まで、15年間は、韓国を訪問していたが、平成22年から中国の上海市へ訪問先を変更している。そこで、継続的に実施することで、より充実した訪問としたい。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 中国の上海市へ変更し2年目であり、長崎県上海事務所を介した訪問ができつつある。第1回目の訪問時から、現地の学校への訪問が実現し交流会が実施できた。来年度以降も継続することが望ましい。 訪問している7月末日頃は、上海市内の中学校では、夏季休業期間中であることから、団体交流会の後に、1対1でのペア交流を実施している。全校生徒との交流等の実施が実現できれば、より充実した訪問になると思われる。 また、昨年度と本年度の交流校が違って、信頼関係を深め、より充実した訪問にするためにも、数年間は同じ学校への訪問が望ましい。		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	研修、交流の成果を広く、積極的に周知する機会・手法の検討を。

【3次評価】

総合判定	B1見直しのうえで実施 ⇒ 事業規模を拡大
備考	・事業自体の必要性は非常に高く、コスト面にも留意しながら参加人数を拡充する方向で検討してほしい。 なお、参加人数の拡大の観点に立てば、修学旅行先を中国とし、助成を行うといった手法も考えられるところ。 ・地元新聞に体験談が連載され、当事業について皆さんの認識が高まったと思う。英語や中国語などをもっと学びたい場合の受け皿づくりの充実が求められる。 ・国際交流の推進に賛成。海外旅行の経験は必ず将来に役立つし、その後の受け皿が整備されれば、事業に繋がりが生まれる。 ・姉妹都市の締結により相互交流などの推進を検討してはどうか。また、上海航路や格安航空の利用なども検討すべき。

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 139 (千円)